



# 教会短信

2010年8月15日

No. 34

牧師 間瀬 善彦

「殺してはならない」(出エジプト記 20 章 13 節)。

戦後 65 年、戦争を知らない世代がほとんどとなり、戦争の悲惨さを語り継いでいくことの重要性が強調されています。特に 8 月は、テレビや新聞などで戦争に関する特集が生まれ、核兵器廃絶への願いが語られる機会が多くあることは良いことです。

わたしの父はすでに亡くなりましたが、戦時中は愛知県豊橋市の兵学校で教官をしていた下士官でした。兵学校で学んだ時、上官に気に入られたのか、あるいは成績が人よりは少しは良かったためか、詳しくはわかりませんが、そのまま兵学校に残り、これから戦地に赴く新兵の教育を任されたのです。

わたしは幼い時、このことを父から聞いて、父を勇ましい人だと思い、当時の兵学校の様子や父の仕事についていろいろと質問したことを覚えています。今から考えると、父はその頃のことをあまり自分から話したがらなかったように思います。それはたぶん、自分の務めとはいえ、兵学校で教育し、戦地へ送り出した兵隊たちの多くが亡くなっていったということがあるのでしょう。

父の話してくれた中で今でも心に残っている話は、赤紙で招集された新兵が、兵学校の訓練があまりに厳しいので、それに耐えきれなくなって自殺してしまった人がいたということ、この件に関しては、父は教官として責任を感じていたのかもしれませんが。もう 1 つは、每晚就寝の時刻をラッパで知らせるのですが、そのラッパの音を、新兵はあまりにその日 1 日の訓練がきついで、「シンペイサンハ、ツーライモンダネ、マタネテナクノカナ」とその音色を聞いたということでした。

父の話には、自分は教官であり、下士官の曹長であって、人から敬われたという自慢話も確かに含まれてはいましたが、話の内容は戦争の無残さをわたしに伝えるものでありました。その後、父から当時の話を聞く機会はありませんでしたが、父は戦後も、上官から命じられた任務とはいえ、多くの人を戦場に送り出す手伝いをしたことを心の重荷として持ち続けたのではないかと思っています。

戦争は一度始まってしまったら、なかなか止めようがありません。わたしたちは戦争を実体験として体験された人たちの話に真摯に耳を傾け、戦争に加担しない努力をすべきです。

# 「教会音楽の学び」

「あなたがたの内に働いて、御心のままに望ませ、行わせておられるのは神である」

(フィリピの信徒への手紙2章13節)。

私は現在、経堂教会の日曜日の礼拝でオルガンの奏楽を担当させていただき、数年前から東京バプテスト神学校で教会音楽を学んでいます。30年程前に九州の教会に通っていた頃、教会の奏楽者として奉仕を始めました。小学生の頃に両親が買ってくれた小さなリードオルガンを自分なりに楽しんで弾いていただけで、人前で弾くことなど一度もありませんでした。しかし、礼拝出席者の中に弾けそうな人がいなかったのがきっかけでした。

奏楽者として礼拝に関わってくると、礼拝についていろいろ考えるようになりました。礼拝で最も大切なことは何なのか。どのようにしたら良い礼拝を捧げることができるのか。礼拝においてよい奏楽者の働きとはどのようなものなのか等々。

ある時、『教会音楽ハンドブック』を手にとって読むと、奏楽者は、技術の習得だけではなく、信仰生活の向上、聖書、音楽の学びも必要であることを教えられました。私の問いの答えはやはり学ぶこと以外にないと、ずっと心に留めていたのですが、ついにその時がやってきました。

1995年から年一回長崎の活水学院における「教会オルガン音楽講習会」を受講し始めたのをきっかけに、本腰をいれてオルガンレッスンを始めることができました。また、2004年に東京バプテスト神学校の教会音楽本科の1科目を通信で受講し、いつか通学して学びたいという願いをもっていました。2006年に念願の通学での学びを開始することができました。

もし私たちが「このようにしたい」とか、「こうなったらいいなあ」という思いがする時は、自分の思いなのか、あるいは神様の思いなのかその時はわかりませんが、もし神様からの思いならばきっと時がきたら実現するのです。たとえ私たちが忘れてしまっても神様は決して忘れてしまうようなことはなさらないのです。時がやってきて、私たちが一歩ふみ出すと、あとは、神様ご自身が後押しして助け、必要なものを与え、導いてくださるのです。

教会音楽科のクラスは毎週土曜日、午前9:30～午後3:30まで、3年間でいろいろな音楽専門科目を履修しました。ついていけるだろうかという不安な気持ちをもちつつも、新しいことを知る喜びは大きかったものです。40年程前に女性宣教師としてアメリカから来られ、日本のバプテスト教会にあってキリスト教音楽のために尽力されたR先生の情熱は、ご高齢にもかかわらず決し

て衰えることがなく、いつもその篤い思いが生徒達に伝わってきました。また、それぞれの学びもこれで終わりではなく、やっと入り口に入りかけたところだと思っています。

今年度前期は、週1回午後6:30~8:30まで選択科目として「人間関係論」を受講しています。これは、「様々な人間関係の流れの中で、自分および他者理解を深めながら、個人また、集団の変革と成長の過程を追求する」という目標がかかげられています。講師先生のリードのもとに、他の5名の生徒の皆さんと共に、顔と顔をあわせて意見を述べあうことを通して学んでいくという実践的な授業ですので、とても有意義です。

これらの学びが教会での様々な信仰生活にお役に立てるようになればと思っています。

H. Y



『真理はあなたがたを自由にします。』

ヨハネの福音書8章32節

自由ってなんでしょう。シンプルだけど難しい問いなので、あなたはいま自由でしょうか、とおたずねしてみましょう。社会で暮らしている以上、法律やマナーの制約はあるし、学校や仕事で締め切りはつきもの。肝心なのは、自分が大切だと思っている領域で自由を感じているか、ということかもしれません。上のことばの「真理」はキリストのことばを意味しています。人間は罪の奴隷状態にあって苦しんでいるとキリストは語っています。そして、彼のことばを信じる人は、心を縛っているさまざまなものから解放されるとも。あなたの心の大切な部分は、いま自由ですか。

(『聖書の品格』いのちのことば社より)